

2015年度 相談支援センターふーぷ（HOOP）事業 報告書

久永結香

2015年相談支援事業2年目であった。契約者数は、成人79名、児童5名。利用者は、等法人の利用契約者のみならず、行政からの依頼や地域で生活する方からの依頼もあった。

事業では、面談による、本人や家族との信頼関係の構築に重きをおいた。その後、利用者の置かれている状況や、課題、ニーズを客観的に把握し、整理して計画書にまとめることに努めた。利用者からは、本人の特性や思いが適切に記載されていると評価されることも多かった。しかし、その計画を日常の生活場面に活かすための、情報伝達については、不十分であったと感じられ、今後の課題である。

また、支援を通して、他の福祉サービス事業所や、医療機関、行政との連携が増え、関係機関の幅は広がった。今後も、利用者に適切なサービスを紹介できるよう、社会資源の知識と、連携を増やして行きたい。

相談員の質の向上のため、各種研修に参加した。特に、近年、対象者が増えている発達障害についての研修会に数回参加した。発達障害についての知識を深めることは、障害種別や年齢に関わらず、相談の場面で役立つことが多かった。また、自立支援協議会の相談支援部会や、近畿地区障害児者相談支援推進・ネットワーク研修会に参加し、他の相談支援事業所との連携と情報交換を行った。

相談支援事業は、計画作成やモニタリングの件数に応じた報酬である。一方、基本相談やケース検討会議などは収益がないが、相談支援事業の質の向上には不可欠である。今後は、その点について考慮し、相談支援事業として行うべきことと、関係者に依頼すべきことを見極めて実施して行きたい。

【相談支援件数】

4月	19件	10月	14件
5月	17件	11月	18件
6月	16件	12月	17件
7月	18件	1月	20件
8月	22件	2月	23件
9月	19件	3月	20件

合計 223件